

# 資生堂 スタートアップと美しい歩行の 新たな評価法基盤を確立

資生堂研究所が主導するオープンイノベーションプログラム「fibona(フィボナ)」は、ORPHEEとの共同研究において、歩行の美しさに関する新たな評価法の実証に向け、本格的な実験を開始した。

同社は先行研究において、活者に歩行動作の分析・評価サービスを提供する「美しい歩行動作」を評価することを目指し、実証実験の準備を進めてきた。

2021年11月から開始している。

同社は、独自のR&Dとして2019年4月に本格稼働し、イノベーション創出に向けた活動を推進する資生堂グローバルイノベーションセンター(GIC)は、コンセプトを象徴する活動である「fibona」において、外部のユニークな発想やテクノロジーと、資生堂が持つ美やサイエンスの知見を融合し、世界

をワクワクさせる新たな価値の創造に挑戦している。その取り組みの一つである「Cool Creation with Startups」はスタートアップ企業のアプローチをスピーディーに同社の製品やサービスに活用することを目指しており、今回連携したORPHEEとは、2019年から「歩行」をテーマにした共同研究を行ってきた。

一方、資生堂は1950年から美容体験を開発・発信するなど、静的な美である顔や肌の美しさだけでなく、動いている姿、身のこなしまでが美しい動的な健康美を「アクティブビューティ」と名付け、全身美の実現を目指してきた。

## 花王 WOTAと「水」と「衛生」に関する領域で業務提携

花王は「水」と「衛生」に関する社会的課題の解決に向けてWOTA(ウォーター)と業務提携し、出資を実施したことを発表した。今後は、両社の保有する「水」と「衛生」に関する技術や知見、ノウハウを活用した共創を進め、持続可能な小規模分散型水循環社会の実現を目指す。

現在、新興国では、衛生的な水の循環再利用は実現していないのが現状だ。

そこで今回、両社は

具体的な内容は、「水」の循環再生や国内の水資源枯渇地域や国内災害時などにおける水場の洗いスタンド「WOSH(Hウォッシュ)」を設置することにも花王の衛生ノウハウの知見も活用し、小規模分散型水循環社会の実現に向けた実証実験をスタートする。

さらに、花王が長年培ってきた界面科学を中心とした本質研究に基づく洗浄・衛生分野の技術を活用し、WOTAの水処

理自律制御プラットフォームを用いた機器のランニングコスト低減に寄与する専用ハンドソープの開発など、技術開発を進めることで自律分散型水循環システムの実証を加速する。

同社は独自の触媒技術による高品質に強みを持ち、これまで日本・フィリピン・ドイツの3つの生産拠点合計でグローバルNo.1の三級アミンの生産能力を有している。今回、新たな生産拠点を設けることで、今後中長期的に成長が見込まれる米国市場に対する安定供給体制の強化を図り、さらにサプライチェーン効率化を実現することとCO<sub>2</sub>排出の削減など環境負荷低減への寄与を目指す。



WOTAの水処理装置と花王の分散型水循環システムの実証実験に使用する専用ハンドソープのボトル。

2016年には、その基本動作として「歩行」の美しさに着目し、お茶の水女子大学・水村真由美教授と共同研究を実施。歩行の美しさを「動きの柔らかさ」の3項目の指標に集約して定義するとともに、各指標についてスコアを設定することで定量的に評価できる評価法を確立した。

また、美しい歩行に重要な要素のつくりや動きを明らかにし、姿勢や歩行に関するカウンスリング、指導、トレーニングを含む動作改善プログラム「モーションビューティ」を開発した。このプログラムを4週間提供することにより、歩行

今回の検証に活用したORPHEEの保有する動作分析システム「ORPHEE ANALYTICS」を活用し、測定精度の検証や顧客ニーズの把握を目的とした実証実験を実施した。

歩行評価とカウンスリングサービスを約50名に提供した結果、顧客の服装などによって分析結果に影響しない高精度の測定が可能であり、体験後に「歩行改善のアドバイスを実践しようと思う」と回答した人は全体の86%、「定期的に歩行分析をしたい」と回答した人は全体の96%にのぼるなど、今後の実用化に向けて有用なデータが得られた。

今回の実証実験により得られた知見を今後さらに深めることで、美しい歩行を実現するための高精度な分析方法やきめ細やかな改善アドバイスに至るまでの分析・評価プロセスを自動で行うことが可能になるとい



歩行評価とカウンスリングサービスの実証実験の様子。

## 花王 米国テキサス州に三級アミン生産拠点を整備

花王は、殺菌・洗浄など産業向けの需要拡大に対応すべく、米国テキサス州パサデナ市に新たに三級アミン生産拠点を建設することを決定した。2025年1月に稼働を開始し、年間2万トンの生産能力を計画している。

同社は独自の触媒技術による高品質に強みを持ち、これまで日本・フィリピン・ドイツの3つの生産拠点合計でグローバルNo.1の三級アミンの生産能力を有している。今回、新たな生産拠点を設けることで、今後中長期的に成長が見込まれる米国市場に対する安定供給体制の強化を図り、さらにサプライチェーン効率化を実現することとCO<sub>2</sub>排出の削減など環境負荷低減への寄与を目指す。

今回の実証実験により得られた知見を今後さらに深めることで、美しい歩行を実現するための高精度な分析方法やきめ細やかな改善アドバイスに至るまでの分析・評価プロセスを自動で行うことが可能になるとい

今回の実証実験により得られた知見を今後さらに深めることで、美しい歩行を実現するための高精度な分析方法やきめ細やかな改善アドバイスに至るまでの分析・評価プロセスを自動で行うことが可能になるとい